



どないすんねん連合! 甦れ労働組合! 取り戻そう団結! 国鉄分割・民営化で不当解雇から36年 **2・12国鉄集会**

2月12日、国鉄闘争全国運動は、江戸川区総合文化センターで国鉄集会を開催し、480人が結集した。

集会には韓国鉄道労組ソウル地本8人が参加し、動労千葉の闘いを教訓に韓国での鉄道民営化阻止、労組弾圧を強めるユンソンニョル政権打倒の決意を表明した。



2月19日、動労千葉第87回定期委員会を開催し、23春闘勝利、3月ダイ改一融合化攻撃粉碎、ローカル線切り捨て攻撃反対、戦争と改憲攻撃に立ち向かう闘う労働運動の再生と組織拡大にむけて闘う方針を確立した。

動労千葉春闘総決起集会

日時 3月18日(土)13時

場所 DC会館 2階大会議室

動労千葉を支援する会 ニュース

2022.2.19
378

動労千葉を支援する会事務局
千葉県中央区要町2-18 DC会館
Tel 043-2202-7820
Fax 043-2202-7820
メールアドレス dc-info@deluxe.ocn.ne.jp
〒口座番号 0015013192036

戦争 新自由主義崩壊 資本主義にNOと言える労働運動を

動労千葉 関道利委員長



すべてが戦争に向けて

突き進んでいる

国鉄分割・民営化による不当解雇から36年、改めて闘う労働組合、階級的労働運動の再生が問われています。ウクライナ戦争開始から1年を迎えます。「台湾有事」を焦点とした米中の衝突、中国侵略戦争へ突き進むという事態が、すべてを一変させようとしています。2023年は、第3次世界大戦・核戦争への道を進んでしまうのか、踏みとどまれるのかの分かれ道です。資本主義の最後の延命策であった新自由主義が崩壊し、その危機の中で戦争が生み出されています。

「資本家階級と労働者階級は

非和解である」

世界戦争の危機が現実のものとして

目の前に立ち現れる中、「資本主義にNOと言える」こと、「資本家階級と労働者階級は非和解である」という階級的なものの方や考え方、階級的な闘い、そして「私たちの社会を作ろう」という立場を鮮明にした労働運動を取り戻すことが必要です。

連合結成にかけた狙い

改めて連合の問題について真剣に向き合わなければならぬ。その出発は、やはり国鉄分割・民営化でした。総評が自ら解散し、結成されたのが連合です。敵は、労働者の団結を破壊し、階級意識を解体することにすべてをかけた、労働運動を資本主義擁護の運動にする、帝国主義的に再編する——それが国鉄分割・民営化であり、連合結成にかけられた狙いでした。

それは当初から戦争をめぐる問題でもありました。連合結成は、国際自由労連に加盟することが前提でした。国際自由労連は、朝鮮戦争の時に日本の再軍備と朝鮮戦争に賛成し、ベトナム戦争にも賛成した組織です。つまり、帝国主義の戦争政策に賛成することを誓わせるということでした。

連合崩壊情勢

しかし、その連合はいまや権威や求心力をとことん失い、労働組合のナショナルセンターの実質として完全に崩壊しています。

この春闘をめぐる情勢を見てください。物価上昇は40年ぶりの水準だと言われる一方、賃金は30年まったく上がらず先進国中最低レベルに落ち込んでいます。もう食べていけないという叫びが各地から上がっています。その時に、ナショナルセンターたる連合は何をしてるんですか。一応「5%の賃上げ」を掲げていますが、その主張も経団連と何の違いもありません。「人への投資を積極的に行う」「成長と分配の好

循環」「GDPも物価も賃金も安定的に上昇する経済へ」。

賃金が「投資」ですか？ 団結も闘いもない、これが労働組合の主張ですか？ 歴史的な大軍拡や敵基地攻撃能力についても、何も言わずに容認しています。

2月7日の自民党の総務会では、23年の運動方針に「連合と連携を強化」と明記され、26日の自民党大会に連合はたぶん出席するでしょう。

こうした連合の状況があるから、岸田などが「物価上昇に見合う賃上げを」と安心して言えるわけです。財界も「賃上げが必要だ」とか言って、いくつかの企業では春闘前に賃上げをやって自慢しているわけです。

しかし、そもそも30年もの間、労働者を「コスト」と捉えて賃金を下げ続け、2千万人も非正規職を生み出してきたのは誰なのか。労働組合を国家暴力で攻撃し、労働者の権利をほとんど破壊してきたのは誰なのか。そんな連中が平然と「賃上げ」を語るなど断じて許せません。

このこと自体が、「賃上げや労働条件をかちとるのも、戦争を止めるのも、労働者の団結した闘いの力だ」という

労働者の階級意識を解体する重大な攻撃です。

3月ダイ改・春闘勝利！

ストを構えて闘いに起つ

私たち動労千葉は、3月ダイ改・春闘に向けてストライキを構えて闘いにたちあがります。もちろんJRの歴史的な大攻撃と対決するためであり、戦争と生活破壊が進む中での春闘だからです。それと同時に、連合を打倒し、階級的労働運動を作り上げる挑戦として闘いにたちあがりたいと思います。

今こそ階級的な労働運動を、階級的なものの方と闘いを取り戻さなければなりません。その可能性は間違いなく生まれています。すでに連合は、「労働者を押さえつける存在」という点でも崩壊しています。改めて階級的な団結、階級的労働運動、「資本主義にNO」と言える労働運動」を、労働者自身の手でつくり上げていく条件が生み出されています。

イギリスのストは、2月1日には過去十数年で最大となる約50万人規模にまで拡大しました。世界中で労働者の闘いが、まさに燎原の火のような勢い

で広がっています。日本でもその怒りに火をつけ、闘いを巻き起こす条件は生まれています。

この情勢に、私たちが国鉄分割・民営化との対決を貫き、日本労働運動の再生、階級的労働運動の再生を掲げて闘い抜いていることの意義は決して小さくありません。本日、11月労働者集会に向けた3労組アピール2023を発表させていただきます

その上で、「戦時下における階級的労働運動再生」ということが問題になっています。戦争が現実の課題として突きつけられる中で、労働組合としていかに闘うのが問われています。

とりわけ今年には、11月集会で国際連帯闘争が始まってから20年を迎えます。本日、韓国・鉄道労組ソウル地本の仲間が8名もの結集で参加してくれています。労働者の国境を超えて連帯するという闘いが今ほど求められているときはありません。資本は「グローバル化」と言いますが、私たち労働者階級はインターナショナルで闘うということとです。今こそ「万国の労働者、団結せよ」です。この時代に階級的労働運動を甦らせよう！ ともに闘いましょう。

久留里線の廃線反対署名スタート

「久留里線と地域を守る会」の発足を確認

木更津支部が主催者として開催した久留里線―房総廃線を許すな 12・4上総地域集会は、沿線地域を中心に150名が参加し、「久留里線は地域のか

けがえのない足であり廃線には絶対反対だ」等の意見が相次ぐなど廃線阻止に向けた活発な意見が相次いだ。さらに、呼びかけ人を募って地域住民署名を行うことが提起された。

元住民の呼びかけで署名開始

1月14日、署名を開始するための呼びかけ人会議が開かれ、久留里線沿線の木更津市、袖ヶ浦市、君津市から29人が集まり活発な意見を交換が行われた。「地域住民全体の署名に」「署名運動を行うには組織が必要」との意見が出され、「久留里線と地域を守る会」の立ち上げが確認された。すでに1月下旬から署名運動がスタートしている。

また、この会合には、「内房線と地域を守る会」の役員も駆けつけてこの間のとりくみと経験などを発言し、「久留里線の廃線攻撃のつぎは、内房線・外房線が狙われているので、共に闘いまし

よう」との連帯のあいさつが行われた。

参加者の意見は次のようなものです。

◇地域住民をまき込んだ大きな運動にしていかなければダメだ。

◇高校でも生徒の通学に非常に影響するので廃線には絶対反対だ。

◇亀山に「トキ」や「コウノトリ」を呼んで観光客を呼び込んで久留里線にもっと人が来るようにしたい。今、そのための活動をしている。

◇沿線の各自治会や各種団体を動かし地域ぐるみの運動が必要だ。

◇「久留里線を守る会」を早く結成して、多くの住民をまき込んだ運動にしなければいけない。

こうした発言・意見を集約して、以下のことが確認された。

①「久留里線と地域を守る会」を結成して署名活動を始める。

②「守る会」は、今日参加した人たちが発起人となる。

③「署名簿」と「署名の呼びかけ文」が準備でき次第、署名活動を開始する。

④署名の集約は2月末に行う。
支援する会の皆さん。ぜひ署名にご協力ください。



2/12集会で久留里線廃線と地域を守る会が登壇

大阪〜京都間 大雪で約10時間車内閉じ込め

ワンマン化すれば非常時に運転士1人の対応に

1月24日、大阪〜京都間を結ぶJR東海道線で、山科〜高槻駅間の列車15本が線路上でストップした。乗客約7千人が列車内に最大10時間閉じ込められ、救急搬送された人も発生。原因は、大雪でレールを切り替える分岐器



20台以上が雪が挟まったり凍結したりして動かなくなったことだ。

乗客と向き合うのは

現場の乗務員

JR西日本は降雪が10センチ以上と見込まれる場合、各分岐器で融雪設備を稼働させる規定になっている。しかし、24日は8センチの予想だったので稼働させなかった。実際には17時以降急速に雪が降り最大15センチの積雪となり、ポイント不転換が多数発生したのだ。

異常時には列車停車から1時間で乗客を降車させる規定もあり、現場の乗務員からも「乗客を降ろしたい」との声が上がっていた。

しかし、現場を指揮した近畿統括本部長は「夜間に雪が降る中で降車することは危険」という判断で不具合の解消まで待つ方針を取り、結果、雪を溶かす作業が難航し、乗客が長時間列車内に閉じ込められることになった。車内のトイレは長蛇の列となり、気分が

悪くなる人も多数出て、救急搬送も必要になった。

結果から言えば、JR西日本には「10年に一度」といわれた大寒波に備えて規定以上の対応が求められていた。それができず列車が立ち往生した時、長時間にわたって乗客と直接向き合って対応するのは現場の乗務員なのだ。

全面的なワンマン化進めるJR東

JR東日本は全路線を対象に長編成・中編成・短編成を問わずワンマン化を進める方針を明らかにしている。

今回と同様の状況になった時、ワンマン化されていけばすべて運転士1人で対応しなければならぬ。その負担は、車掌とともに対応する場合とは比較にならない。

JR東日本は、業務融合化・「その他時間」設定・「鉄道部門4千人削減」など乗務員と鉄道業務をないがしろにする施策を進めている。しかし、鉄道の安全を守っているのは運転士・車掌であり現場の労働者だ。

動労千葉は3月ダイ改合理化・ワンマン拡大に反対し、ストライキを構えて闘いに立ちあがる。

新設・拡大提案（7月1日実施）の統括センター

箇所	区間	営業キロ	総営業キロ
茂原 統括センター	鎌取～江見	92.5km	102.1km
	大網～求名	9.6km	
木更津 統括センター	浜野～和田浦	103.4km	135.6km
	木更津～上総亀山	32.2km	
成田 統括センター	佐倉～銚子 (総武本線)	65.2km	198.3km
	佐倉～松岸 (成田線)	75.4km	
	成田～成田空港	10.8km	
	成田～東我孫子	29.5km	
	香取～鹿島 (成田線)	17.4km	

権利や労働条件は、「どこで、どんな業務をして働くか」ということと切り離すことはでき

首都圏本部への統合と一体
7月実施の直前、6月には車両センターを支社から切り離し首都圏本部に統合するとしている。そこで働く労働者がどういふ扱いを受けるのか、どこに飛ばされるかもわからない状況だ。さらにCTSなどの車両整備会社の再編につながる攻撃でもある。業務融合化と一体で、鉄道業務の全面的な外注化と分社化・転籍攻撃が狙われている。

狙いは職場の団結破壊

会社の攻撃は整合性があって進められているものではない。狙いは、乗務員の誇りを奪い、競争に駆り立て、団結を破壊することだ。

現場からの怒りの声と、職場に闘う労働組合を取り戻すことこそ会社の攻撃を打ち破る力だ。

千葉支社全駅の（営業）統括センター化
広大な範囲が一職場に

労働者の権利の根本的破壊

社好きにできるといふものだ。労働者の労働条件と権利の根本からの解体だ。

ません。統括センター化は、広大なエリアにわたって職種も勤務地も、勤務指定一つで会

市東孝雄さんの農地に対する強制執行を弾劾する！



2月15日夜8時過ぎ、国家権力・機動隊の暴力のもとで、天神峰の市東孝雄さん農地取り上げの強制執行が行われた。

動労千葉は、15日早朝から現地に駆け付け、さらに夜の強制執行が始まるとの報を聞いて、再び現地に駆け付け、機動隊と激しく対峙して闘う反対同盟や支援の学生や労働者市民と合流し、16日の朝まで共に闘いぬいた。